

開催日時：2002年8月5日(月) 15:00~18:15

場 所：アクスネッツ

参加者数：委員7名(うち1名はリーダーの要請により参加) 河川管理者15名 委員傍聴者5名

#### 検討内容および決定事項

##### 委員から情報提供と意見交換

###### ・紀平委員からの情報提供(樟葉地点の水位変動と魚の生態について)

樟葉地点の砂州では、0.P(大阪湾平均干潮位)5.5m 5.0mの急速な水位低下がコイ、フナ等の産卵に多大なダメージを与える。これを軽減するためには、6~12時間かけてゆるやかに水位を低下させる必要がある。また、0.P5.5mを越えるような水位変化の頻度もあげなければならない。

今後、淀川の他地区での水位変動と洗堰流量の関係についても同様に検討するために、河川管理者には断面図や水位などの資料を提供して頂きたい。

###### ・村上委員からの情報提供(霞ヶ浦における水位操作見直しによる湖岸植生帯保全の事例)

霞ヶ浦では、過去の植生のデータを時系列にまとめて比較・検討がなされた。淀川流域においても、まず何のために水位操作を見直すのかを決定したうえで、その過去のデータを収集して比較・検討する必要がある。

###### ・西野委員からの情報提供(琵琶湖の底質変化および底生動物変化について)

1969年と1995年を比較すると、全体として底質の細粒化が進み、底生動物にも大きな影響を与えている。その主たる原因はダムによる土砂供給阻害や湖岸堤の整備が考えられるが、特定するには到っていない。

###### ・谷田委員からの情報提供(ダムが河川の連続性に与える影響)

移動障害、低温排水、水位変動・ハイドロピーキング、藻類異常繁殖等の影響があげられる。また、ダム貯水池の水位変動域にはまったく植生が成長しない裸地が形成されるが、琵琶湖の水位操作によって同様のことが起こるとすれば、大きな問題である。

##### 河川管理者からの情報提供

河川管理者より、洗堰・ダムにおける水位操作の状況に関連して、以下の資料が提供され、説明が行われた。

- ・淀川大堰の水位調節によるわんどの環境改善(平成12年~14年)について
- ・ダム貯水池水位とダム流入量・放流量の比較(一庫ダム、青蓮寺ダム)
- ・琵琶湖の沈水植物調査について
- ・ダムの堆砂、琵琶湖、日吉ダムと下流河川水位、各河川における水位変化について

##### 次回以降のスケジュール

第5回WGを8/23(金)14:30~17:30に開催する。

##### <予定している内容>

- ・これまでのWGで収集したデータや資料についての意見交換
- ・堰やダムによる水位操作の問題点・影響・効果を、ダムの上下流 琵琶湖の上下流 淀川大堰の上下流にわけて、それぞれ整理・検討を行う。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。